

自然・人為・循環

アーティストと水草研究者による石狩川をめぐる考察



谷口顕一郎個展「凹みスタディ #50」× 上川大雪祭 2024 年
北海道上川町大雪高原旭ヶ丘 森のホール Photo: 藤倉 翼

2025 年 6 月 21 日(土) 12:30 ～ 14:00

札幌市民交流プラザに浮かぶ『凹みスタディ - 札幌のかたちを巡る 2018』を手がけたドイツ・ベルリン在住のアーティスト谷口顕一郎氏と植物分類学の中で水草を専門とする山崎真実氏を迎え、石狩川のフィールドワークを共通項に人為の痕跡と再自然化について考察します。

スピーカー

谷口顕一郎 (アーティスト)

山崎 真実 (札幌市博物館活動センター 学芸員)

モデレーター

藤沢 礼央 (札幌市立大学デザイン学部 講師)

佐藤 康平 (札幌文化芸術交流センター SCARTS)

札幌市民交流プラザ 札幌市図書・情報館 1 階サロン

(札幌市中央区北 1 条西 1 丁目)

入場無料

予約不要 (定員 50 名 先着順)



Photo: 藤倉 翼

谷口顕一郎 Profile

1976 年、札幌生まれ。北海道教育大学札幌校 芸術文化課程絵画科を卒業。2006 年よりドイツ・ベルリンと札幌を拠点に活動。自然と人間の境に見つけた痕跡を「凹み」と呼び、世界各地で収集・アーカイブすることをライフワークとしている。その凹みの形に折りたたむなどの動きを加え、3 次元の可動彫刻を制作している。第 1 回本郷新記念札幌彫刻賞受賞 (2015 年)、ペーパーアートアワード銅賞受賞 (2023 年 ドイツ・ベルリン)。主な展覧会にアムステルダム国立美術館、ロッテルダム美術館、A4 美術館 (中国・成都) テジョン美術館 (韓国・大田)、コダ美術館 (オランダ・アペルドールン) などがある。近年、石狩川の名残である三日月湖や河跡などで「凹み」を集める長期プロジェクト「石狩川凹み游行」を行っている。

山崎真実 Profile

札幌市博物館活動センター学芸員 (札幌市文化振興課博物館学芸担当係長)。専門は植物分類学。市民向け行事や展示の企画・製作・実施の試行錯誤の現場と、札幌市の自然史博物館の整備推進に携わる。卒論で標本の扱い方を学び、その後、高山植物を研究するつもりが大学院受験対策で読んだ本の一節に「水草って変な植物だ!」と衝撃を受け、水草に転向。修士課程修了後、半年の研究生＝就職浪人(?)を経て、2001 年 10 月から現職。2013 年 9 月北海道大学農学院博士課程単位取得満期退学。2019 年～東海大学生物学科「北海道の野生生物 (植物)」非常勤講師。書籍 (分担執筆、水草を担当): 「北海道水辺の生き物の不思議」(2013 年 北海道新聞社)、「湿地の科学と暮らし 北のウェットランド大全」(2017 年 北海道大学出版会)



関連展示開催

札幌市図書・情報館 1 階サロン 5 月 29 日～7 月 8 日